

## 平成 21 年 第 1 回田沢湖地域審議会会議録

日時 平成 21 年 7 月 1 日 (水) 午後 2 時

場所 田沢湖庁舎 第 1 会議室

### 出席委員

佐藤 和志	千葉なみ子	梁田 良雄	井上 幸子
石井 和子	今 郁子	高橋 吉幸	

### 会議を欠席した委員

藤村 正喜	高橋 正男	千葉 正登	高橋 正治
齋藤 英明	倉橋 重基	眞崎 久仁子	

### 会議に出席した職員

田沢湖地域センター長	茂木 正道
企画政策課長	高橋 新子
農林課長	佐藤 秋夫
観光課長	大澤 清
総合窓口課長	三浦 勝
企画政策課主査	阿部 聡
総合窓口課班長	戸村 和子

### 会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事  
(1) 農業と観光について
- 4 その他
- 5 閉会

### 三浦総合窓口課長

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

ようやく今年度第 1 回目の審議会に入るわけですが、今年度は、まとめの年となっておりますので、何卒ご協力よろしくお願ひします。

議事に入る前に、4 月 1 日の人事異動により担当職員が変わりました

ので、私の方から本日出席の職員の紹介をさせていただきます。

はじめに、田沢湖地域センター長の茂木です。

茂木センター長

茂木です。よろしく申し上げます。

高橋企画政策課長

企画政策課の高橋です。昨年度に引き続きよろしく申し上げます。

三浦総合窓口課長

今年度から農林課長になりました佐藤です。

佐藤農林課長

佐藤でございます。よろしく申し上げます。

三浦総合窓口課長

引き続きまして観光課長の大澤でございます。

大澤観光課長

大澤です。よろしく申し上げます。

三浦総合窓口課長

4月1日より窓口課に参りました三浦です。ひとつよろしく申し上げます。同じく4月1日から生活福祉班の班長として参りました戸村でございます。

戸村総合窓口課班長

戸村です。よろしく願いいたします。

三浦総合窓口課長

企画政策課主査の阿部でございます。

阿部企画政策課主査

阿部でございます。よろしく申し上げます。

三浦総合窓口課長

それでは、会議次第によりまして議事を進めたいと思います。議事の進行につきましては、地域審議会の設置に関する協議第7条の規定に基づきまして会長の方から申し上げます。

梁田会長

では、さっそく議事に入りたいと思いますが、今日は農林課長と観光課長にお出で願っておりますので、今年度の方針を農林課長さんからお願いたします。

佐藤農林課長

農林課の佐藤です。資料の3ページに基づきまして説明させていただきます。今日のテーマ、農業と観光についてですが、農林課の主要事業ということで1枚の資料にまとめましたので、これに基づいて説明して

いきたいと思います。

1 番目が地産地消推進事業で特産品を利用した料理コンクール及び料理教室の開催による地産地消の推進ということで、今年は 10 月に産業祭を西木で開催予定です。この中で料理コンクール等を市の単独事業として実施して参りたいと思っています。

2 番目が流通対策推進事業です。新規の農産物等の直売所を開設する場合、または業務を拡大する場合、これにつきまして、市単独で 25 万円を上限に、新規の場合は半分、業務拡張の場合は 3 分の 1 を補助して、新規起業者の方のお手伝いをするということにしております。それからどぶろく特区に係る新規提供のための助成事業です。、仙北市はどぶろく特区になっておりますが、まだ申請された方はおりません。いろいろハードルがありまして、農業者が自分で作った米で自分でどぶろくを作ることが条件となっており、現在酒造の許可を戴いた方はおりません。今一人の方がやってみたいということで、相談を受けていますがまだ具体的に進んでおりません。

3 番目、中山間地直接支払い交付金につきましては、ここに記載のとおり傾斜のきつい田んぼの維持管理に対する助成ということで、平成 19 年度から始まっております。3 カ年ということで今年度まで 17 集落で実施してございます。

4 番目の子ども農山漁村交流プロジェクト事業、これは文科省、農水省、総務省、合同の事業でございます。仙北市全域が、受け入れモデル地域となりまして、受け皿となる組織の構築や受け入れプログラムに係る現況調査を行うもので、直接子供さんたちを受け入れる方に対する補助ということではなく、その環境づくりに対する補助ということで昨年度から進めております。今年度も受け入れ、受け皿づくりということで、消防の講習、それから救急救命の講習等を 6 月に 1 回実施してございます。

5 番目は「今こそチャレンジ」農業夢プラン応援事業ということで、これは、個々の農家の方々の新規作物導入に係る補助事業でございます。

6 番目は売れる米作り推進事業というもので、これは JA 独自の減化学肥料使用米ということで載せております。これにつきましては、いま安全安心が求められておりますので、化学肥料を減らし農薬を減らして特栽米に近い型のお米を作った方々に対する補助でございます。

7 番目は、桧木内地区で実施しております中山間地域の総合整備事業、これは農道、用水路、排水路等の整備でございます。

8 番目が農地、水、農村環境保全向上対策事業で、各地域水掛かりを同一にする地域の環境保全ということで田沢湖地区で 11 地区、角館地区

で 11 地区、西木地区で 9 地区で 2,220 ヘクタールにおいて実施しております。

9 番目は市有林造林保育費で、枝打ち間伐を実施しております。

10 番目は森林整備地域活動支援交付金事業、仙北市で対象森林面積が 5,709 ヘクタールあり、45 年生以下の人工林を対象として平成 19 年度から 23 年度まで実施するものでございます。

11 番目植樹・育樹ふれあい支援事業、都市住民ボランティアと市民が森林作業を通じて、森林保護、水源涵養等の効果を図ると共に、市民による森林活動の自主的参加を推進するという事で実施しております。これも 6 月 27 日土曜日、東京方面から参加していただいて第 1 回目を実施しております。9 月に 2 回目を実施することになっております。

12 番目が農業集落排水事業で田沢地区で実施しております集落排水でございます。これは今年度で事業が終了して、22 年度から供用開始ということで皆さんに使っていただけるよう進めております。

13 番目が、家畜導入事業で、家畜の優良家畜の支援事業です。優良素牛、優良乳用牛、肥育の素牛等の導入に対する補助でございます。

14 番目放牧預託事業、これは上桧木内に大覚野牧場という市営の牧場がでございます。ここに放牧するための補助事業を実施しており、100 頭放牧しております。

15 番目、頭首工改修事業ということで老朽化した頭首工の改修事業の調査費でございます。これにつきましては、角館の桧木内川についている国道 46 号線古城橋上流の頭首工、それから、もう一カ所が抱返りの吊り橋から見える頭首工です。コンクリートが欠けており、吊り橋の真下の上流側の頭首工を改修したいということで、できれば来年度から工事に着手したいということで、今調査しているところです。

16 番目が、木質バイオマス施設建設事業、これは、新エネルギーとして、エコエネルギーとして注目されて、色々事業が行われていますけれど、仙北市の場合は間伐材、製材所の端材を利用した木質バイオマスということで、木材のチップからガスを発生させてガスタービンエンジンを回して発電するというもので、今年度事業費を要求しております。場所につきましては、西木町のクリオンと老人保健施設にしき園の間に建設して、クリオンとしき園に電気を供給し、発電時に発生した熱エネルギー暖房や、クリオンの温泉の加熱等に使っていききたいということで今年度完成する予定で進んでおります。以上が農林課の今年度の主な事業です。簡単ですが、説明を終わらせていただきます。

梁田会長

質問等何かありましたら。

私から聞きたいのですが、今、農業は集まって規模を拡大するところ、あとは小さく自分の家で食べる分だけ作るという二局化しているように見うけるけど、それに対してどういうふうな、後継者問題に対して何か対策等ないものですか。

佐藤農林課長

集団というか、協同で事業しているのが集落営農という組織、それから仙北市内でも幾つかありますけど、農業生産法人、法人格を取って農業をしている方、任意の集落営農組織ということで、地域の農業をリードするというか、まとめて担い手となっていただいているのが現状でございます。それにつきましては、主要事業の5番の“今こそチャレンジ”農業夢プランの事業をフルに活用して、たとえば集落営農で大きい方は、100町歩という単位の営農している方もおります。こういう方についてはそれなりの大規模な農業機械等も必要になってきますので、そういうものに補助したり、融資したりという形で進めております。

梁田会長

耕作放棄地があちこちで見られますが、それを管理し市民農園みたいに貸し出しするなど出来ないものですか。

佐藤農林課長

耕作放棄地は実際にございます。これについては、実は我々の立場から完全に耕作放棄地と言っているものは、約5ヘクタールです。見た目で耕作放棄地となっている田んぼですが、今の減反政策の生産調整の中で、自己保全管理の転作消化の形で、転作のカウント面積に入れてもらうという形になっています。

市民農園というのは過去にございました。転作田を提供していただいて、市民の方々が自家菜園のように使っていた経緯もございますが、なかなか農業者の意識の変わらないところで、自分の所は耕作しなくても自分で管理するという意識が、まだまだ強くてそこまで進んでいない状況です。過去には角館でしたが10a～15a位を40区画でやったことはありましたが、その後、続きませんでした。

佐藤（和）委員

二つほどお伺いしたいんですけども、耕作放棄というか、減反で使っていない部分に例えば山菜とか、阿仁辺りでよくやっているようですが、ああいうのは仙北市で出来ないですか。

佐藤農林課長

山菜については、転作確認で現地調査していますが、若干ございます。

フキ、ゼンマイ、ギョウジャニンニク、ウド等ありますが、なにせ自然から集めてきて植えるものですので、広面積での栽培が出来なくて販売には結びついていません。どちらかという自家消費になっております。特に市としてもそれを進めようとする取り組みはございません。

佐藤（和）委員

田沢湖にも山菜工場がありますけど、今、やっぱり国産というものではなく、西木、田沢湖の山菜工場のほとんどのワラビ、ゼンマイは輸入品だと思うが、人口が少なくなって行って今までみたいに、何でもという時代ではないと思いますので、米が採算のとれない品種だとすると、そういうふうなスライドしていくというのも一つの方法ではないかと思えます。消費はホテル、旅館があるわけですから、そういう方向にあってくれればいいと思っています。

もう一つ、色々補助事業で集落排水とかありますけども、西木とか角館の在、田沢湖というのは里山ということで、観光課長さんもお出でするのでそういう故郷の原風景みたいなものをイメージしてこられると思いますが、集落排水というのが、たぶん行政から仕事を出すときはほとんどコンクリートの側溝とかで決めていくと思うんですね。ですから町内の側溝であればコンクリートでも良いと思うんですけど、やっぱり西木とか田沢湖の在、角館の在の里山を残すというイメージであれば、コンクリートの側溝でなくて、石で積むとか、栗の木を使った木の側溝とか、観光地ですので他所の市町村がやらないことを、敢えてやるのが地域興しというか、観光の町としては、発想を転換して同じ予算を使うにしてもコンクリートでなくて、そこにあるものを使ってという地域作りがあってもいいのかなと思うんですけども。コンクリートの方が安上がりといわれてしまえばそれまでなんですけども。ある程度コストが掛かってもここだけは、たとえば西木のカタクリなんかのある処に、今もコンクリート側溝やってますけども、なるだけ目に付く処は石とか木で側溝を作れば、お客さんの目からすると優しい里山になるのかなと思うんですけども、その辺どうでしょうか。

佐藤農林課長

最初にでた集落排水、たぶんこの資料に基づく農業集落排水のことを言ったのかなと思ったんですけども、この農業集落排水は下水道のことです。これについては下水道事業が田沢地区で今行われております。これで今年度終わるということで、これについては地下埋設ですので、今のお話に該当するものではないです。それから、農業用といいますか集落内の水路の舗装の件でしたけれども、おっしゃるとおりでございます。それ

で大規模な水路であればホタルが棲めるとか、色々環境対応型ということで草の生えるような側溝の整備もしております。ですけれども、なにせ小さい農道について側溝につきましては、維持管理の面からしますとどうしてもコンクリート側溝になってしまうと。集落田んぼの方々はそれぞれ堰払いといいまして春夏に泥上げしたり、それから草刈りしたり色々しておりますけれども、これらを継続的にまずいちばん簡単に確実に行うということで、今のところはコンクリート水路が主流になっております。実はここに 8 番の農地・水・農村環境保全向上対策事業ということで、これは集落内で自分たちの地域の水路なり道路なりを補修してくださいという事業です。これで神代の鎌川地区では間伐材を使った丸太で側溝を作っています。集落で皆さんが出役してやるというかたちで作っています。ただ私共も何年持つか心配はして見ておりますが、今のところまだ地域に元気があるということで、間伐したスギ丸太で水路を作っている所もございます。我々も水路を造った後の管理まで全部行政が、どこまでもやっていけるのであれば、今おっしゃられたような水路も出来るわけですけれども、なかなか地元で管理するという事になれば、地元の方々の要望も入れるということになれば、外で見たものと実際に管理する方の意識の違いがでてきて、どうしてもコンクリート水路になってしまうというのが現状でございます。

高橋（吉）委員

地産地消の推進事業の中身はこういう形で今年はということで、予算の掛かるところで計画されているようですけれども、去年の 3 回目のところに出てきた学校給食と地元の野菜を使っていたということも当然出てきたんですけど、今年市としては働きかけといいますか、地元で作った野菜を使っていたような仕組み作りを考えてくれていたのでしょうか。

二つ目の、新規直売所の開設に対する助成ということですが、このことについては、私も新しく行った所に話したら、お金がなくて困ったと言う話もちょっと聞いたもんですから、それは市役所の農林課に行ってみて話してみたらと勧めた経緯はあるんですけど、こういう何と言いますか、新規は 2 分の 1、継続は 3 分の 1、というような予算を考えておられるようですが、実態から言いますと、農協婦人部でやられる場合はそういう方面から行って相談するでしょうが、分からなくて困っているという状況もあったので、この後もし指導いただければと思うわけです。その辺も含めて質問申し上げます。

佐藤農林課長

学校給食でございます。学校給食については、今お話のとおり昨年度も

実施しております。今年度も今回の主要事業には記載しておりませんが、引き続き実施しております。これは角館の地域審議会でも話題になりましたけれども、やっぱり学校給食は大量に使います。給食センターで使う材料ですので、ある程度規格の揃ったものの品質の揃ったものでなければなかなか使われないということで、難しいのではないかなど。で、やはり地産地消ということですので、地元で作って地元で消費するということなんですけど、農家の方々も自分たちで作って自分たちで商いをするという商業的な考え方を、もう少し持ってもらわなければ、使う方もなかなか喜んで使えない。規格の統一したものが出てこないという感じで今のところ進んでおります。いちばん多く使われているのが、角館の給食センターです。ここについては、子供達に山菜なんかも提供していますから、フキとかワラビとか、そういうものを皆さん地域の方々が、同じ所で収穫して来るので、品質にばらつきが無いというようなことで使われているようです。ジャガイモとかになると土の関係で堅いイモもあるし、柔らかいイモもあるということで、なかなか一回に大量に使う生産に結びついていないという感じでございます。それから、直売所のことですが、農林課で皆さんへ広報の仕方が悪かったのかなと思って今聞きましたけれど、何れ市の広報紙、お知らせナビ等に掲載しながら、皆さんから申し込みがあれば、それに対応していくということで、今現在、今年三カ所予定していましたが、6月15日で締めた部分で二カ所補助いたしました。新規の方に助成しております。まだ一カ所残っております。今後増えるようであれば、補正等で対応していくということで、門口を広げておりますので、もし皆様こういうことで聞かれましたらお知らせいただければ、一回農林課に電話していただければ、来ていただかなくても概略説明できますのでよろしくお願いしたいと思います。

佐藤（和）委員

転作で神代の辺り、かなり大豆とか作っているようですけれども、これはかなり生産量としてはあるものですか。

佐藤農林課長

はい。かなりございます。何れもJAさんに出荷されております。ただJAさんの方からは、なかなか大豆が落札しないということで捌けてはいっていないようですけれども。

佐藤（和）委員

売れないということですか。

佐藤農林課長

はい。



佐藤（和）委員

それで、ひとつ提案あるんですけども。私も味噌を造ってるんですけど、味噌豆でなくて青豆で造ってますが、青豆がなかなか無くて、たまたま神代の大石さんと話したら、幾らでもあるよという話なんです。田沢湖エリアは宿泊施設がいっぱいあります。たぶん旅館でやるとすれば難しいと思うので、お金はホテル、旅館で出し、それで作業場と保管する場所をJAさんか農家のグループでも良いと思います。、そういう部分で協同で地豆で造った味噌を観光客に使うという動き、事業をなんとかならないものかと思います。ということは、地産地消とかいいながら、どうしても先ほどの給食の話にもでましたけど、どうしても規格とかという難しいと思いますが、味噌みたいなものは、やっぱり比較的とつき易い部分なのかなと思うんですね。私は、敢えて今最新の機械を使わないで、なるだけホテル、旅館と農家の人と協同で手を掛けたものを造るほうが良いと思います。それが逆に観光という部分からすると、すごく評価を貰えるんでないかなと思うんですね。そこの仕掛けですね。ホテル、旅館からというのはなかなか難しいと思うので、たぶん、年間大きいところであれば、何トンも味噌を使うんだと思うんですけども、同じ買うのであれば地場のもので良いもの、美味しいものであれば、私は協力してもらえるのかなと思います。そこいら辺少し研究していただければ、ありがたいなと思います。

佐藤農林課長

はい。解りました。青豆ってどのような豆なんですか。

佐藤（和）委員

枝豆の豆です

梁田委員

今流行っている豆は、秘伝という青豆ですね。これまでは緑光が主流でしたが。

佐藤農林課長

ここら辺で枝豆を作っている方もかなりおります。お盆と角館のお祭りに向けて合わせて栽培している方々です。なかなか大豆というか、味噌煮用とか豆腐用に収穫するまで採って置く方は、なかなかないものだから。たぶん農協さんでたくさんあるといったのは、「すずさやか」とかいう今の無臭大豆関係の豆で県のほうで推進したから、あることはあるんです。ほんとうに味噌煮となれば「リュウホウ」とかそういう感じの豆になります。

佐藤（和）委員

味噌豆で味噌を造るのは、どこでもあるわけなんですね。だから他所で

作っていない豆を使って造るというところに、食べてもらえる要素があるのであって、田沢湖で神代でどういう豆がいちばん収穫しやすいかという部分もあると思うんですけども、たぶん豆を作っても JA 以外に持って行っても、規模の大きい所になんとしても負けるんです。

佐藤農林課長

何れ、ゆで豆だとすれば収量の関係もございますので、生産者と相談してみなければ。豆として収穫する豆より収量は落ちるはずですので。

梁田会長

値段は高いです。3 倍くらいする。「秘伝」とかは「リュウホウ」の。わらび座の豆太という豆腐屋さんがありますが、今は「秘伝」ですが、去年は集まらなくて普通の豆で造ってしまったと言っておりました。青豆が集まらないので、豆は頼んで作ってもらっているようです。

佐藤農林課長

何れ、1 年に一回しか採れない作物ですので、今から勉強させていただきます。

佐藤（和）委員

一種類の豆でというのも、最初から難しいと思うんですけど、できれば味噌豆でない豆で味噌ということなんです。そうすると、特別の価値がでますので、売るにもいいわけですね。せっかく減反とかで作っても、他所に持って行って売れないという部分が残念です。前にヤマノイモもそうでしたけど結局 JA では、価格保証するだけなので、作ってもらわなくてもいいというくらいでしたけど。今は方々で使うようになったので、売れるようにはなってると思います。やっぱり最初のとっかかり、地元で使えるとなれば農家の人にも、頑張ってもらえるようになると思うんです。実際うちでも、枝豆の青豆を集めるとするとやっぱり 3 倍ぐらいの値段するんです。普通の味噌豆からすれば。でも実際に造ってみれば味が違うんです。これだけの宿泊施設がありますので、せっかく豆があるということですからね。

佐藤農林課長

はい。解りました。参考にさせていただきます。

高橋（吉）委員

去年から連続して聞くけれども、認定農業者の数は 19 年度末で 399 人となっているわけですけど、目標が 390 ですから当初の目標は達成しているという状況にあるわけだけど、この人達が仙北市・田沢湖の農業の中心になると思うわけです。こういう人たちは、一人ひとりそれぞれ良い力を持っていますので、あまり市として引っ張っていかなくてもやっていく人

たちだということで、考えていると思いますけども。何れ、人を育てるといことが、如何に大切かということです。市の農業を発展させていくためにも、やっぱりこういう人たちを機会を捉えて指導していくとか、そういう考え方はどうなのかと、JAにお任せという形になるのか、その辺を市の農林課としてどういう方向を考えているのか。もし分かれば。

佐藤農林課長

はい。認定農業者ですけれども、今おっしゃったとおり認定農業者は多数おります。ただ、最近再認定という場に直面した場合、再認定を受けない方が相当数ございます。それは高齢化のためにもういいと、それから後継者がいなくてこれで自分の代で終わりというような農家が最近でてきております。なかなか認定農業者は増えないというか、そういう現状です。市といたしましても認定農業者には、全部お金の話で申し訳ないんですが、補助事業については優先的に割り当てをしております。それから各種講習会についても認定農業者の方々に優先して参加していただくような方法は取っています。今認定農業者として増えてきている部分につきましては、新規就農者ということで、農業試験場、畜産試験場、そういう所に研修に行って2年間研修されて農業を勉強してきた方々が、新規就農した場合は、認定農業者のような形で入ってきております。この方々については、新規就農ですので、自分の家で今現在やっている農業にプラスアルファの部分を目指す方が大変多いわけですので、それらについては適当な補助事業を紹介しながら進めています。今仙北市でいちばん増えてきているのはネギです。中国産のネギが入って来なくなったということで、生保内方面は少ないですが、神代から西明寺、角館にかけては広面積でネギが増えてきております。新しい部門の農業形態ができてきているというのが現状です。ほとんど認定農業者の方々が取り組んでいる事業でございます。

高橋(吉) 委員

新規再認といいますか、それは何戸くらいありますか。全体の戸数に対して。

佐藤農林課長

新規就農者として、農家の子供達が後継者として入ってくるということで今年度は3人ございます。毎年3、4人農業試験場の方に仙北市から研修に出ておりますので、2年間の研修を終了してから、帰ってきて就農するという形で、少しずつですけれどもそういう方は増えております。農業の研修に行く方々は、一回就職した方が多いようです。他産業に就職して、一回サラリーマンをやって2、3年そちらで仕事をしてきて農業をやるという方が多いようです。

梁田会長

観光課長さんからお願いします。

大澤観光課長

私の方からは、資料ということで 21 年度観光施策の方向と主要事業ということで出しております。昨年状況をお話しながら説明していきたいと思っております。昨年の状況ですけど、ちょうど今頃 2 度の地震がありまして、それらの風評被害ということと、秋から始まった世界同時不況で、19 年の観光客と比較して 20 年は 12 % ほどの減少で 525 万人ほどの人出となりました。今年につきましては、1 月から 3 月までは前年からの景気の低迷、雇用情勢の悪化ということで前年比で 97 % ほどということで、出足がちょっと悪かったんですが、その後 4 月、5 月につきましては桜まつり、ミズバショウまつり、カタクリの人出が伸びまして前年比 108 % と 1 割弱の観光客が伸びております。この前、大変話題になりました 6 月 1 日に秋田県で最初の新型インフルエンザ患者ということで、仙北市から出ましたけれども幸い被害のほうは広がらないで、風評被害につきましても大きな影響までならないで、一安心している所でございます。この後、何時どんな状況で出てくるか心配ですが、こればかりは何ともならないので、また出たときには、こちらの方から観光施設の方に適切な情報を流して行きたいと思っております。

それから、有料駐車場で角館の所に桜並木駐車場というのがございまして、そちらの駐車場につきましては 4 月 5 月 6 月で前年比の 10 % 程伸びております。ただ、中身的には普通車は伸びておりますが、大型バスにつきましてはちょっと減少というような所でございます。予算的には、今年観光の当初予算につきましては、大きな伸びはなかったんですが、補正関係で国の雇用対策とか、経済対策関係で国の交付金が出ておりますので、それらを財源とした補正予算措置を行っているというようなところでございます。

続きまして今年度主要事業ということで記載してございます。

1 番目に観光資源の掘り起こしということで、観光資源発掘調査、これにつきましては、重点プロジェクトの資料にも載ってございますけども、食べ物、風景、工芸品というようなまだ知られていない物を一般募集いたしまして、それに対して 17 ほどの提案が出てございます。まだ中身的には具体的な検討はしておりませんが、中身を検討して商品として売り出せるものがあれば、売り出して行きたいと思っております。それから、観光庁の観光圏整備事業ですけども、これは昨年の 10 月に観光庁ができて、その中で魅力ある観光地づくりということで 2 泊 3 日以上滞り型観光を促進するというのがございます。そういう観光圏を形成するとい

うことで昨年 16 カ所、この春に 14 カ所観光圏ができました。仙北市も観光圏の整備として観光圏の形成を、今のところ秋田市とかあるいは雄平仙というような枠組みの会議が進んでおります。まだ国の方の許可までいておりませんが、この後、会議を重ねて枠組みを決めて進めて行くということになると思います。

2 番目としまして、観光基盤・交通アクセスということで、ミズバショウ木道整備、これらは国の交付金事業でミズバショウの木道の傷んでいる部分、あるいは新規の部分で進めて行きたいと思います。公衆トイレの洋式化ということで、これも同じ国の交付金事業ですけども一般家庭でも洋式化が大部進んでおります。また、外国人の観光客の対応のためにも、今の和式のトイレを全部というわけではございませんが、部分的に洋式化して行きたいと思います。

抱返り遊歩道トンネルの照明設備についてですが、見返りの滝の手前のトンネルに現在ある照明は、トンネルの上部の石をくり抜いて設置した照明でございますので、トンネルに入った時点で暗くて危険なため、そちらの方に小さな照明設備を設けたいと考えています。

それから、緊急雇用事業による自然公園等の整備ということで、これは田沢湖畔とか抱返り溪谷周辺を整備して、枯れ枝ですとか流木とかを片付けて行きたいと思っております。

それから抱返りシャトルバスですが、これは温泉ゆぼぼから抱返り駐車場までの区間を、抱返りの紅葉祭の期間だけですが、約 1 ヶ月間角館駅から温泉ゆぼぼまで運行したいということです。それから乗合タクシーの運行ですが、これも重点プロジェクトでやっている事業ですが、内陸線の松葉駅から田沢湖あるいは乳頭温泉郷まで乗合タクシーを運行するということが、20 年度までは臨時的な運行でしたが、今年度からはある程度決まった運行といいますか、この後ずっとこういう形で残していくということでございます。

それから、観光モデルコース検索システムですけども、これはホームページを作成してモデルコースを検索するということが、観光客にあらかじめの情報をホームページで見て実際に来て、それを活用していただくということです。

3 番目としまして、受入態勢づくりでございます。これは接客等観光研修会ということで、観光関連の事業所の従業員の皆さんを対象に何回もやられてるわけですが、この後も研修会を開催したいと思っております。

それから市民向け観光ガイドブックです。市民向けと書いておりますが、同じように観光関連の従業員の方々が、仙北市内の簡単な観光案内が出来

るような、ガイドブックを作りたいと思っています。

4 つ目としまして、観光情報の発信と情報の収集ということで、首都圏等でのキャンペーン・キャラバンこれは、県の観光課・あるいは観光連盟それから広域の観光協議会雫石町とか北秋田市と作っています。さくら関係で北上市・弘前市とも広域の協議会を作っておりますので、その協議会と一緒に誘客キャンペーンを行いたいと思っています。観光アンケート調査ですけども、これは観光客の動向把握のため、秋頃に市内で 5、6 か所程度で実施したいと思っています。それから温泉ガイド・観光パンフレット等の作成、温泉施設がたくさんございますのでそれらの温泉施設をエリア別にして、効能とか温泉に関する情報を伝えるような温泉ガイドを作りたいと思っています。ふるさとサポーターの募集 PR 活動ということで、これは重点プロの事業でやってますけども、企業誘致とか定住促進観光 PR などお手伝いをしてもらえる人を募集するというので、現在登録者数は 52 名ございます。先月に首都圏在住のサポーターの皆さんから集まっていたいで、協力依頼をしております。

5 つ目としまして、観光と他産業の連携ということで、農産物販売情報データベースこれもインターネット上に農産物とか農産物加工販売品情報を掲載してございます。特産品料理教室は、先ほど農林課の方からお話ありました料理教室でございます。それから、山の楽市での特産品販売は旧田沢湖町が平成 7 年度から実施しておりますが、相模鉄道の二股川駅構内での特設会場で特産品の販売、そのときに観光宣伝、相模鉄道沿線を廻りまして、観光キャンペーン等を行って行きたいと思っています。

6 つ目として体験型観光、農業体験とか教育旅行の受け入れということで、去年は 30 校を体験受け入れしています。これは観光課分でございますので、桜皮細工とかイタヤ細工とか農業体験も 1 校ございましたけれども、大部分農業体験以外の教育旅行でございます。30 校で 1,500 人ほどの申し込みがありました。一般の方は、31 件 316 人の方が申し込み体験してございます。子ども農山漁村交流プロジェクトにつきましては、先ほどお話ありました教育旅行誘致キャラバン北海道、仙台ということで、これは 6 月の下旬に仙台に行きまして、中学校 42 校と旅行業者等廻っています。この後、7 月の中旬には札幌周辺の中学校を廻る予定です。北海道の誘致キャラバンにつきましては、男鹿市、鹿角市と合同で誘致して来たいと思っています。農業体験受入農家の開拓ということで、これも農林課と協議しながら、新たな受入農家の掘り起こしをして行きたいと考えています。

7 番目の国際観光ということで、海外エージェント商談会これは県の観

光課、観光連盟主催の商談会に参加しまして、台湾、韓国等のエージェントの誘客を働きかけたいと思っています。それから海外観光宣伝・誘客事業でございます。これは田沢湖の観光協会が8月から韓国語、中国語、英語の会話できる方を2名雇用するというので、そちらから外国語のホームページを開設したり海外の個人旅行者あるいは旅行業者へ仙北市の観光を働きかけたいと思っています。それから、外国人を対象とした観光アンケート調査ということでノースアジア大学と協力して、アンケートを実施したいと思っています。以上簡単ですがご説明しました。

梁田会長

ご質問ありませんか

佐藤（和）委員

2番の公衆トイレの水洗化の件なんですけど、ただの水洗かそれともウォシュレットまでいきますか。

大澤観光課長

当初はただの水洗を考えていたんですが、せっかくだったらウォシュレットを付けたいということで、ウォシュレット付ということで計画してます。県の自然公園課で作ったものも含めまして、全部ではないですが、その中の一部ですけどやりたいと思っています。

佐藤（和）委員

ちょっと汚い話で申し訳ないんですけども、うちの方で温泉なんかやってみて、昔は家族で銭湯に行くと陰部を洗って入れとか言われたものですが、今は大人の人も服を脱ぐとそのまま入るんですね。できれば観光地、田沢湖は、温泉がありますのでウォシュレットにしてもらえれば、衛生上全然違うと思うんですよ。ウォシュレットを使ったのと紙だけを使ったのは全然違うので、作るのであればウォシュレットを推薦してもらいたいと思います。

大澤観光課長

はい。解りました。

佐藤（和）委員

抱返りのシャトルバスの件なんですけど、やはり新幹線が田沢湖と角館に止まりますので、新幹線を降りたら抱返りに行けるというイメージであればいいと思っています。再三、角館抱返り、抱返り田沢湖というものをイメージしてますが、今回は観光協会が田沢湖と抱返りを繋ぐしかないかなということで、話はしてますけどできれば行政の形で角館・抱返り・田沢湖を結ぶようなシャトルにならないと、まだ観光協会が一緒になってない部分で、田沢湖も一生懸命抱返りを売って、角館も一生懸命抱返りを売って

いて繋がらないというのは、すごい不経済な話なのかと思います。その辺なんとか行政で頑張ってお願ひできればと思います。

高橋企画政策課長

今現在は、角館駅から紅葉期間中だけ、わらび座さんのシャトルバスを延長させていただいているということで、残念ながら田沢湖の駅から抱返りへの移動はできないんですね。私、後で知ったんですが、今回秋の紅葉シーズン中の何日間か、田沢湖の観光協会ですら予約制のタクシーの実証実験をするんですか。運行させるんですか。

佐藤（和）委員

予約制でタクシーをお願いしてということですか。

高橋企画政策課長

今、秋田内陸の地域公共交通連携協議会というのがありまして、北秋田市と一緒に仙北市で生活交通における公共交通のあり方、内陸線、道路もバス、タクシー等も含めて協議会を作っていて、その中で計画を策定しています。そうした21年度から3年間実証実験の可能なメニューも、補助事業の中にあるものもあるんです。是非来年の事業に、もう少し観光課から話を聞いて一定の期間実証実験をしたいということであれば、半分国の支援を受けて行うメニューもあるので、来年の事業計画の中で少し検討したいなと思ってました。運行経路だとか、ダイヤ、運行時間だとか具体的に、後で皆さんにご相談しながら計画に載せて申請したいなと思ってますので、実際秋口になると思います。来年の事業の。その節は色々ご助言等いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

佐藤（和）委員

どうしても、新幹線で角館・田沢湖の移動というのは料金が高いので、この間をバスで抱返りに寄るようなコースがこれから求められるのかなという気がします。

高橋企画政策課長

びっくりしたのは、角館から田沢湖の間1時間おきぐらいにバスが走っているんですね。羽後交通の生活路線バスですが、ほとんど観光客の利用はないんですね。

佐藤（和）委員

お客さんからは、問い合わせはあるんですけども、意外と周知徹底していない。お客さんは結構シビアなので、安いほうで行きたいというのは結構あるんです。

高橋企画政策課長

角館から田沢湖、田沢湖から角館への移動は実際ないんでしょうか。角



館に降りれば、角館を見てあとは盛岡に抜けるんですか。

佐藤（和）委員

泊まりは田沢湖に回ってきます。そのときに「新幹線高いんですね」と言われる。お客さんに再三言われるんだけど、実際にバスの情報が意外と分かっていないんですね。たぶん案内所フォレイクにも確認しないとはっきりしませんが、角館の駅前蔵のあたりとか連携してお客さんに周知しないと、たぶん分からないと思います。バス時間は細かいので観光客は意外と見ないですね。

高橋企画政策課長

観光客と地元の利用者も少ないので、そのダイヤについて、今羽後交通と話し合っているところで、経営が厳しく撤退の話も少しあります。運行便を減らすかということもあるので、そこいら辺も含めながら検討しなければというふうに課題としてはあるんですけど、撤退と言う言葉はないんですが、赤字の8分の1が県の補助金で8分の5が市の補助金で8分の2を事業者が負担するというのがあって、今のままだと非常に事業者は負担が厳しいので、運行を継続するとなれば事業者が負担する8分の2も市に肩代わりしてもらいたいという話がまもなく出てくると思います。そこいら辺も合わせて検討していかなければいけないということもありましたので、何らかの形で実証実験はしたいなと思っています。

佐藤（和）委員

うちの協会でも確認してみますけど、お客さんからはよく言われるんですよ。

高橋企画政策課長

周知が徹底していないということですか。

佐藤（和）委員

羽後交通のバスも営業所からでるというのは分かるけど、駅前から乗るというのが分からないと思うんですな。

高橋企画政策課長

今は全部駅前に乗り入れしてるんですよ。営業所から出て駅に全部入って行ってるんですよ。生活路線バスとして走ってるのは。なので角館・田沢湖間のバスも営業所から出て駅に行くんですけど、バスの乗り場がもしかして分かりにくいかもしれないんですね。角館の駅前蔵の後ろのバス乗り場が、駅の前から見えない所がちょっとネックになっているかもしれないんですが、何れ非常に利用者が少ないので私はびっくりしたんですよ。

佐藤（和）委員

結構お客さんは調べています。

高橋企画政策課長

そうですか。そうしたら何らかでも、もう少し周知の方法を考えてみたほうがいいのかもしいですね。

今委員

前に抱返りに秋の紅葉を見に行こうと思って行ったんですが、駐車場がいっぱい手前の道路までいっぱい止めるところが無くて、これでは面倒くさいと、そのまま引き返して来たんですけども、今後はあの辺の駐車場の整備予定とかはあるのでしょうか。

大澤観光課長

抱返り溪谷が2年ほどその工事で休みまして、一昨年から紅葉の時期に遊歩道を歩けるようになったんですけども、大部お客さんが来ましてお客さんに駐車場関係でご不便かけたということで、昨年は駐車場的には同じ量なんですけども、奥の方のトイレのあるところは舗装してます。その手前で抱返りの実行委員会の方々が、舗装していない部分、砂利の所でやっています。その所から山の方へ上っていった所に建設会社の資材置き場がございますので、そちらもお借りしまして対応することにしました。昨年はそちらまで駐車というのは、紅葉シーズン中は1日2日ぐらいだったように記憶しています。警備保障関係とか看板等でご迷惑の掛からないようにしたいと思っています。

今委員

これから外国人の観光客が増えてくるかと思うんですが、たとえば旅館関係の方たちであれば、そういった接客の研修会とかは行っているかと思うんですが、一般の商店関係向けの研修会などは、なにか行う予定はないのでしょうか。

大澤観光課長

昨年、県とか観光連盟主催で外国人向けの研修会を行ってます。それは特に観光の関連の事業所さん向けなんですけども、一般の方も参加できたのかなと思いますけども、ただ、今年についてはまだ講習会の予定はなかったのかなと思っています。

今委員

そういった案内を分かり易くしていただければと思います。

大澤観光課長

観光協会等から流すものは関連する事業所さんですので、案内が限られた部分はあったのかなと思います。

今委員

商店関係に限らず、一般向けにでも研修を受けたい人がいるかもしれないので、範囲を広げていろんな方が受けれるようにしてもらえればありがたいです。

大澤観光課長

何れ人数的な制約もあると思いますので、そこいら辺その範囲で収まるようだと一般の方も参加ということも可能だと思いますけど、この後、どういう形で行われるかというのが、県の観光連盟の計画が今の所無いようですので、出た時点で中身を聞きながら、情報を発信して行きたいと思っています。

梁田会長

合併前に田沢湖町で、町主催で中学校に教えに来ている外国の先生が年間 10 回ぐらいで、簡単な英語を教えておりました。あと玉川温泉とか玉川のビジターセンターに英語の案内が全然無くて、ヨーロッパのお客さんを連れて行くと、すごく感激してエキサイティングとかって喜ぶんですけど、スイス・エストニアのお客さんには、案内の無いのが残念です。

大澤観光課長

現場を確認して、うちの方ですぐ出来るとすれば、例えばラミネートみたいなものに簡単なものと出来るかと思います。検討したいと思いません。

井上副会長

鶴の湯さんの社長さん佐藤さんに伺いたいんですが、お客さんですけど韓国人・中国人いろんな方いらっしゃると思いますけども、その場合の温泉側の対応とといいますか、言葉、習慣の問題で戸惑うこともあると思いますけど、差し支えない範囲でいいです。どういうふうな対応をなさっているのでしょうか。

佐藤(和) 委員

先月朝日新聞にでたりして、誤解される部分あるだろうなと思っていましたけど、新聞ではほったらかししていたほうがいいと出ていたんですけども、実はほったらかしではないんですね。片言で、例えば予約とか売店の物販の片言ぐらいは、従業員が自分たちで勉強しています。私、思うには、大型施設になればそういう対応をしないとまずいと思うけど、小さい施設でも出来ることに超したことはないんですが、あまり頑張り過ぎて面白味が無いという部分もある訳です。うちは、秘湯ということで設備もグレードも落ちてるから、外国の方はみんな調べてきているので、全然しゃべれないというものではなくて、ある程度片言で話せる人が来ています。だからお互いに片言で話して、その部分の面白さがあると思うんですね。確

かに山奥に行って全部通ずる面白さもあると思うが、お互いに分からないところで、一言でも二言でも理解できたという面白さと言う部分も見逃せないと思うんですよ。手前の高原のホテル・旅館であれば、フロントに一人話せる人がいなければ駄目な時代とは思うんですけど、山奥に行ってペラペラやられた時には、ここが山奥かというイメージが壊されてしまうと思います。考え方も色々あるんですけども、旅行の楽しみというのはいくつかの部分に多分に含まれていると思いますので、やれるところとやれないところのメリハリというか、小さな施設が無理してパーフェクトに対応するという事は難しいです。案内所とか大きいホテルとかメインな場所できちんと対応できれば、辺鄙な所は逆に変に対応しないほうが、お客さんとしては面白いのかなと私の個人的な考えです。ですから、看板もそうなんですけども、武家屋敷もあるし、田沢湖もあるけど、田沢湖は良いと思うんですけども。例えば、武家屋敷にハングルとか英語の看板が建ってしまうと、たぶん日本でないような気がすると思うんですね。伝建群の入り口までは、英語・ハングル語があってもいいんですけども、伝建群の武家屋敷の中には英語・ハングルは置いてもらいたくないというのが正直な所です。パンフレットとか色々ありますので、トイレというのは手洗い、洗面所イコールトイレというパンフレットがいっぱいありますので、敢えて武家屋敷の中で英語、ハングル語は必要ないと思います。これは考え方ですけど。ハングル語があったりすると、日本のイメージが崩れるんですね。せっかく日本に来ているのに、ハングルがあることで日本のイメージが薄まってくる部分、私は勿体ないと思います。色々な考え方があると思いますが。

#### 千葉（な）委員

先ほど観光課から説明ありましたが、私は観光で潤う町づくり、観光客が何度も田沢湖に行きたいと思うのは、佐藤（和）さんが言われたように、優しい里山地域興しをするには、ホテルが棲むとか、排水溝をコンクリートでなく、無理とは思いますが自然の用水路、我が家では田んぼを休んで蕎麦作りをしているので、ほんとうにここ何日かは、家の前までホテルが飛んできます。昨日もその話をして、こういうのを是非見せたいなど話しました。こういう自然環境、その土地に行って車の窓から見える道路沿いの景観も大事だと思います。第3回の地域審議会でもお花を植えたいとか出ましたが、長続きしないとありました。私たちも他所の町に行ったときに道路沿いが綺麗だと好感を持ちます。田沢湖地区はそういうところが出来てないし、続かなかったり色々ありましたけども、やっぱり景観も大事だと思います。

大澤観光課長

実は、私も自分の家の後ろが土側溝だったんですが、管理するのに堰上げなど大変でコンクリートにしてしまった口です。たしかに、環境と人の利便性がバランスよく取ればいいのですが。受け入れ体制ということでは、従業員の人たちに対して接客の講習などやって行きながら、また来てもらうような環境を作ったりして行きたいと思っています。また、道路沿いの花ということで、西木地区では今度の日曜日にマリーゴールドの花植えの行事がありますけど、それぞれの住んでいる地域の人が自分の家の前にプランター一つでも育ててもらったりすれば、来たお客さんに対して優しい気分になって帰ってもらえるのかなと思います。

高橋（吉）委員

県道西山線、今年拡幅の予定、乳頭山に向かう道路、私の町内を走る道路でありますけど、今年予算が付いたとか、付かないとか住民には説明が無いんですけど、この後拡幅計画あるとか聞いてませんか

大澤観光課長

すみませんが、そちらのことは分かりません。

高橋（吉）委員

私たちは毎年道路脇の草刈りしたりしますが、現実には県の管理ですか。県道だから。小先達から高原に向かう道路、県道西山線と言っていますけど。あの通りは道路が狭くて、今回拡幅するという話も聞いているんですが。

佐藤農林課長

その件について、私の方から3月まで建設課にいたもので、県の方にお願ひして、歩道の切れている所がありましたので、歩道を付けていただきたいと、手前の方ですが国道341号からあがった所、東日本でしたか、あれから上の方に歩道を付けるようお願いしました。その中で用地の関係で共有地があつて、なかなか一筋縄で用地の協力が得られない部分がありますので、そこら辺で難儀したところがありますけど、測量しながら進めたいということで、建設課に、土地は仙北市で、用地交渉なり地権者との折衝をしてくださいとお願いされてました。その後、どうなったか分かりませんが進めているはずですよ。上の駐車場のある所から上については、歩道としてでなくても道路を拡幅して、歩くスペースを確保したいということで、ホテル街の所はやりたいと聞いております。さらに奥の部分については、危険箇所を少しずつ、年に1カ所でもいいから解消するようお願いしておりましたので、今年幾らか進むのではないかと考えています。

高橋（吉）委員

この間も地域で話し合ったんですが、草刈りですがボランティアで出来る所はやるが、県道に草が被さってきていて、車もかなり走っているがその管理は県でやるのか、市から県に言ってやると県でやってくれるのか、その辺は分からないので、何れなんとか改善していただければと思います。

茂木センター長

地域センターとしては、振興班で市道の草刈りということでやっています。そういう作業班も前はかなりの人数がおりましたけれど、だんだん人数が減ってきて、手が回らない状態です。ましてや県道は全く手をつけられないところで、今のお話は私の方から県、或いは担当のほうにお願いして改善してもらいます

佐藤（和）委員

観光課で、農産物販売情報データベースとありますが、たぶん、旅館、ホテルの皆さんは、田沢湖で採れる野菜についてあまり分かっていないと思うんですね。そういう部分で、事業とすれば私も何回か観光協会に JA さん、農林課の地産地消とかで会合に出させてもらったことがありますけども、板前さんとか民宿とか料理に関わっている人達を、仙北市の東前郷とか白岩とかの畑を、見学させてもらおうとすごく効果あるのかなと思います。私は実際、オクラは下がっていると思ったら上を向いてるんですね。板前さんもそういうところは分からないと思うんですよ。ソラマメも仙北市で採れると思ってなかったですから。施設の社長でなく、実際に調理する人を募集して畑で実際に見てもらったほうが、消費意欲が沸くのかなと思うんですね。常に会合があると頭の人だけ集めて、実際に使う人に情報が届いていないと思うので、そういう部分を仕掛けしていただくとありがたいです。

大澤観光課長

はい。どういう仕掛けができるか、JA さん、農林課の佐藤課長と相談しながら、これから夏野菜もでてくる時期ですので、どういった方法で仕掛けしたらいいか、考えていきたいと思います。

佐藤（和）委員

昨年、西木に山を見に行ったとき、西木の山奥でビニールハウスでハウレンソウを作っているんですね。缶詰とか。なんで西木の山の上でハウレンソウかと思ったんですが、我々消費者はほとんど分からないんですね。ああいうのを見れば、板前さんとか民宿の調理部門を担当している人は使って見たいと、消費意欲が沸くと思います。ただ産直に出てくるものだけを見ては分からないと思うので、仙北市はこんなに畑が広いんだと見

せてもらおうと刺激になるのかなという気がします。

佐藤農林課長

大変貴重なご意見ありがとうございます。実は、逆に生産者もどういう物を求めているのか分からないと思うんですよ。自分で作った物が一番良いという頭で出荷していますから。販売する物もそういう物しか出てこないで、観光課と協議しながら検討したいと思います。

佐藤（和）委員

話し合いする機会が数あると、だんだん意識が変わってくると思うので、そこいら辺お願いします。もう一つ、山の楽市の件ですが私も何回か参加した経緯はあるんですが、ものを売り、売り上げを出すのも一つですが、ある意味で季節限定のアンテナショップだと思うんですよ。売れる売れないは別にして、毎年、農家の人も違う人が行ってくれば、意識が変わってくると思うんですよ。せっかく市の予算を貰っていくので、毎年同じ人でなくて違う人が行くと、どういうものが売れるとか、どういうものが好まれるとか、情報を貰ってくると思うんですね。毎年同じ人が行って売り上げを出すというだけで行くのはもったいない事業かなと思います。農家の人が実際自分の持って行ったものが、なんぼで売れるか、そのところが一番インパクトある部分で、去年より多く売ろうなんて毎年行ってそれではなくて、常に新しい人が行って個々に商売ってどういうものなのか、農家の人が商売に目覚めてもらえば、帰ってきてから、ものを作るにも気持ちが変わってくると思うので。それがいつも同じ人が行って、同じものを売ってでは進歩がないのかなと思います。

大澤観光課長

この事業は商工会と商工課で行っていますけど、来週に会議があるようですので商工会の方には、この会でこういう話があったことを伝えます。

佐藤（和）委員

一人でも二人でも新しい人が行けば、農家の人の意識が変わると思うんですよ。それがこの事業の一番の目指すところで、売り上げの評価ではなく、行ってきた人の生産に対する意識の向上が大切だと思います。

梁田会長

農家の人たちも、どこに向けて野菜を作っているのかというのがあって、作り易いもの結局は自分のために、一番作り易いものを作るという。それから、流通業者との関係で流通し易いものを作るとか。消費者のために作るっていうのはあまりいないです。正直なところ。

佐藤（和）委員

私は、四国のつまもので地域興しをしたあの村で、65、70のじいちゃ

ん、ばあちゃんがやっているし、宮城県「あ・ら・伊達な道の駅」東北で一番流行るって言われているが、あれもやっぱり 60、70 のおばちゃん達が携帯電話で全部やってるんですね。自分の作ったものが金になるのが分かると、面白くなると思うんですね。100 円でも 200 円でも金になるというのが生産意欲になる部分だと思います。その火つけ役がこういう事業だと思います。お客さんとのやりとりで勉強すると思うんですよ。我々がこれを作れば売れると言ってもなかなか分からないと思う。現場にいった初めて分かると思う。

茂木センター長

今言ったように、給食、直売所の話もでたけども農家のほうは、まだ自分たちで売るという意識がないです。作れば売れるというか、例えば、直売所でトマト 3 個で 100 円と決めたらずっと変動しないんですね。それが 120 円にできるかもしれないけど。昨年給食センターを兼ねていたときは、卸してくれる農家の人たちにプロになって欲しいと思いました。自分たちが作って余ったものを出すのではなく、頼まれたものは確実に出荷するように。ただグループで作ってこれ出来ますよ。今日は出来ますよ。では使えないし、ある程度自分たちで売ろうとする意識とか、自分たちで値段を決めるとか、岩手県の戸田さん戸田牧場でしたか、スーパーに直売所をもっていった自分たちで値段を付けている。60 代の人たちが自分の作った野菜はこの値段で売れるか自分でデータを取り販売している。ある程度プロ意識をもって販売しないとなかなか旨くないかなと思う。佐藤さんの言ったように山の楽市のような現場に行くことによって勉強になると思います。

佐藤（和）委員

うちで駅前で産直をやっていますが、品物が集まらないんですよ。27 人ぐらい会員がいるんですが、品物が揃わないんです。あ・ら・伊達の道の駅ですと、会員だけで 160 ぐらいいるんです。その会員が皆携帯電話で連絡が付くようになっているようです。田沢湖ばかりでやってもそういう気持ちにはならないと思います。東京みたいな所にポンと放してやったときに、どういう刺激を貰って来るかなんですよ。だから常に何人か新しい人を入れて勉強して来るということだと思います。

梁田会長

次に盆踊りについてセンター長に説明していただきます。

茂木センター長

報告ということで説明させていただきます。今年の 1 月 19 日付でこの会から、生保内の盆踊りについてのお願いということで実行委員会に出さ



れました。内容としては、前のように盆踊りに多くの人に参加していただいて、活気あるものにして欲しいということでした。これについて、私も盆踊りに関わった者として、長く関わっている公民館長の黒沢と相談して来ましたので報告させていただきます。

一つは、各種文化団体、企業、学校、幼稚園、保育所に呼びかけて参加してもらったらどうか。二つめに他の盆踊り、西馬音内とか毛馬内とか呼んでやったらどうか。、経費が掛かるのでこれについては、生保内財産区の支援が得られないかということでした。三つめの実行日について、お盆の帰省客がいる中にやったらどうかということで、現在 8 月 20 日に毎年やっているが少し早めたらどうかという三つの提言がありました。

一つ目については、同様なことをやったことがあります。合併前の 15、16、17 年の役場の駐車場で、企業、学校、幼稚園、保育所に呼びかけて踊りの指導にも行きました。神代の方にも行きました。企業の社長さんの理解があって参加者が増えました。神代の婦人会も参加しました。一時的に盛り上がったことがあります。学校関係については校長先生の考え方で大きく変わりますし、企業については社会情勢によって大きく変わります。

二つ目の他の盆踊りを呼ぶことについては、どうしてもお金が掛かります。頑張って呼んだものにして、それが続かなくなったときには戻ってしまうのでないか。

三つ目の実行日については、前に 8 月 16 日に実施したことがあります。14 日、15 日が石神・向生保内のお祭りで 15 日が生保内のお祭りで、その地区の人たちが疲れて参加できないということ、また、お客さんがいる間は踊りに参加できないというお母さん方が多かったのが実態でした。どうしても今の状況でいくと 8 月 20 日辺りに落ち着いてしまう。結論から言いますと、みんなで誘い合って参加していただいて、自分たちの盆踊りという意識改革していかないと、無理だという感じがします。現在、公民館でやっているものですから、行政でやっているのかなと勘違いされているところがありまして、公民館の職員は終わると疲労感だけが残る状態です。楽しく踊って帰っていただければいいんですが、呼びかけてようやく輪になるような現状ですので、皆さんどうか今年の盆踊りに誘い合って来てみてください。少しずつ地元の文化という意識が芽生えてくるとありがたいと思います。かつては何にもない時代でしたので、中学校のグラウンドにたき火を焚いて 1 週間前から太鼓の音が聞こえてくると出かけて行ったものでした。今は、いろんな楽しみ方があるので、価値観が違ってなかなか難しいのが現状であると、公民館長の方からの報告がありましたので、お伝えします。

石井委員

この前、新聞に秋田市内でヤートーセの踊りが盛大に行われ、盛上がったのが載っておりましたが、なんとしてもこの地域では盛り上がらないということですね。

茂木センター長

かなり難しいです。例えば、ヤートーセ踊り・ドンパン節の新しい踊りは若い感覚の踊りで若い人たちが入ってきてますが、昔ながらの西馬音内の踊りとか有名な踊りは人に見せるためのものでなく、自分たちが楽しむためにですよ。生保内節も踊っている人たちが楽しむために集まらないと、公民館・行政で舞台を作って踊ってくださいという形になってしまいます。

石井委員

ロック調の生保内節は長続きしませんでしたもんね。結局は何やっても盛り上がらないということですね。市民一人ひとりの意識ということになるんですね。

茂木センター長

そこにたどり着きますね。

石井委員

ですから、盆踊りに観光客を呼びたいとか言っても、マニュアルどおりには何も出来ないということですね。出来たとしても観光客に対する接客の講習を受けたとしても、そのとおりの接客は出来ませんよね。お客さんに外国人がいらっしやっても、言葉は通じないんですけどただ身振り手真似で分かりますからね。私たち。講習会に参加したところでどうなんでしょうね。

茂木センター長

なんでかといわれても、正直言って回答ないんですけど。少しずつ意識は変わっていると思うんですけどね。若い人たちについては。自分が子供の頃は、楽しみが無く夜の太鼓の音で出かけたものですが、今は楽しもうと思えば自分一人でも、楽しむことがいっぱいあるような気がします。自分が青年会に所属していた頃、先輩に今の若い者は協調性がないと言われました。酒飲みするというとみんな集まったものだと。今は皆んな個人で車を持てるようになって、情報も簡単に取り入れることができることから、無理に人に合わせることなく気の合う仲間だけ、また自分だけで行動するようになった。意識が変わったのではなくて環境が変わってそういう時代になったところからスタートして行かないと、難しいかなと思います。婦人会の方も元気がなくなって来ています。かろうじて頑張っている

のが老人クラブですが、老人クラブも高齢化してきています。

佐藤（和）委員

県の3大盆踊りを2年続けて見ましたけど、西馬音内はやっぱり違うなと思いました。生保内節の盆踊りは品の良い踊りだし、やりようによっては県の3大盆踊りに入ってもおかしくないくらいのものだと思います。昔は、バカになれる人がいて、最初から最後まで舞台上がって太鼓たたいて歌う人がいたわけですね、今、そういう人がいなくなってますので、もしやるとすれば、わらび座さんみたいな方が何人か桜になって、恥ずかしいとか関係なく先になってやれる人をお願いするか、小・中学生が必ず参加する仕掛けにすると、見る人、大人が出てくると思うんですが。角館のお祭りは、踊らなくてもハンテン着てお祭りの格好して夜遊び出来るのが、子供にすると面白いと思う。何かメリット感がないと集まって来ないと思います。それが婦人会も元気無くなって、若い人も集まらなくなってくるとなると、見に行ってもおばちゃんばかりではなあとと思います。私の若い頃は年頃の娘さんを目当てに行ったものです。踊りも覚えていると会社に入ってから、何かやれと言われればすぐできるので、小・中学校できちんと覚えさせて、盆踊りに必ず参加するという形にすれば、別に大人がどうこういう以前に集まって来ると思う。賑やかにするには、わらび座の何を何人か桜に頼んでやれば良いと思います。面白くなれば地元の人も集まって来ると思います。

石井委員

音頭をとってくれる人が無理というのであれば何も出来ませんね。

茂木センター長

昔は好きな人たちがやっていたと思うのですが、放送機材など公民館で貸し出したりして、少しずつ関与しているうちにいつのまにか逆転して外から見ると行政が主導な感じになり、現在に至っております。

佐藤（和）委員

観光協会で田沢湖1割ちょっとの落ち込み、先ほど課長も12%って言いましたが、実際田沢湖の宿泊が一番落ちています。ここ1年28%落ちています。乳頭9%、玉川11%、高原18%なんですが、湖畔が一番きついです。田沢湖に人が来ないと、観光地としては人が集まらないと思います。何とかして観光協会も田沢湖に人が集まるような仕掛けということで考えてましたが、一つは1周道路ですね。去年あたり、かなり側溝に蓋をして道幅が広がってる場所もありますので、徹底して1周全部側溝に蓋をすれば、かなり道路が広がるのかなという思いはあります。崩落で崩落の作った部分がかなり広さもあって、でこぼこはあっても、歩くには

ちょうど良いコースかと。是非、田沢湖1周を車に影響されずに安心して歩ける遊歩道が必要だと思いますので、道路と遊歩道の整備がいちばん最初でないかなという気がします。昔は田沢湖が綺麗だというだけで来てもらえたが、今はそれだけで観光客は呼べないので、プラス雨が降っても雪が降っても、天気に影響されずに何か見るものが欲しい。考えてみますと有料道路が無料になってから箱物の施設がなにもできていない。入り口に職員一人貼り付けて、だれも入らない資料館がありますが、これをクニマス資料館として、大きいものは必要ないので新しくして欲しいです。世界に一つしかいない魚ですので、皆さん興味があると思います。、施設がないと、田沢湖って何もないよなで、車で1周して帰られてしまう危険性が多分にあるので、なんとか皆さんにお願いしたいと思います。機会ある時に企画政策課長さんからもお願いしていただきたいです。

高橋企画政策課長

前回の地域審議会でも佐藤さんから、クニマス資料館について提案されていたと思います。遊歩道で崩落工事した上の部分が確かに遊歩道に使えそうですが、前に工事する時に聞いた話では、自転車を走らせたり遊歩道として使うとすると、落ちないように安全対策をしなければならない。柵でもないですが、何も手を加えないで歩かせることはできない。工事の計画の中にもないと言われた記憶があります。そのとき崩落の対策工事をするときに、サイクリングロード、遊歩道合わせて出来れば良かったのですが、そのときは、そういう冷たい返事でした。この後7月に振興局懇談会もありますので、もう一度、県の田沢湖の自然公園のあり方というか、整備計画というか、聞いてみたいと思います。それから、クニマスですが、雨天時、冬の間の観光客が休憩できる場所がないということについては、今現在市としては、具体的な計画はもってないです。

茂木センター長

資料館については、旧田沢湖町時代に改装計画ができました。お金がかかるので電源交付金というかダムのほうから入ってくるのを、積み立てしておりましたが、5年ぐらいです。それが、病院建設にいつってしまったんです。財政的に厳しくなってそういう事情がありました。今は資料館の改築の計画はまったく無いと思います。せめて入り口だけでもという話はしましたが。

佐藤（和）委員

観光協会、地元の事業者としても、今の田沢湖プラス何か目玉がないと、今以上の入り込みは無いというのが現実なんです。何かひとつはやらないと。鉄筋コクリートで何億となると、逆に維持費が大変なんですね。私は、

あまり大きい物はいらないと思います。きちんとクニマスというものを位置づけられれば、興味もってもらえると思います。前に観光協会で当初 300 万のウォンテッドクニマスをやって、すごい評価があってその後 500 万の懸賞金をだして結構効果あったんです。みなさん興味持ってることは確かですが。どこにあるか分からないものを見に行くという時に、見せるものであれば、額縁に入れて見せない。やっぱりそういう場所が必要だと思います。予算はきつい時代ですが、黙っていれば今以上に落ち込んでしまうので、何かひとつ変わったものが出来れば、田沢湖に行ってみようかとなりうると思うんです。是非、ご検討お願いします

梁田会長

今日、少しまとめたかったんですが無理のようです。この次是非ともまとめたと思いますのでよろしくお願いします。

茂木センター長

皆さんにあらかじめ今日の話題をまとめて戴いて、次回までお願いしたいです。

16 時 15 分閉会